

## ヨハネによる福音書15章1-17節

## 私はまことのぶどうの木

15:1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。

15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことによって、もうきよいのです。 15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。 15:6 だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。

15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。

15:8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。 15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。 15:10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛の中にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。 15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。

15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。 15:13 人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。 15:14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。 15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。 15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。

はじめに

今日はヨハネの福音書にあるイエス様の7つの断言、「I Am～」シリーズの9回目のメッセージです。イエス様は、「わたしは、『わたしはある。』」という出エジプト記3:14の神様の名前を自分自身に対して使って断言しています。今日の断言も、イエス様が人間になった永遠の生きている神の言葉であるということを示しています。敵対していた人達でもそれを認めざるを得ませんでした。ヨハネ7:46 「役人たちは答えた。「あの人が話すように話した人は、いまだかつてありません。」

## 1. 従う事により実を結ぶ

正しい解釈をする為に先ずこの箇所を文脈の中で読まなければなりません。まことのぶどうの木と枝のたとえ話は、イエス様がゲッセマネの庭に行こうとした時に話されました。14章の最後を見てみるとそれが分かります。

ヨハネ14:31 「しかしそのことは、わたしが父を愛しており、父の命じられたとおりに行なっていることを世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。」

イエス様は父なる神様をどんなに愛しているかを世に知らせる為に、命じられた通りに十字架にまで従いました。私達も信者として全く同じように、イエス様の言葉に従う事によって父を愛している事を知らせなければなりません。この節の少し前の21節も同じ話の流れです。

ヨハネ14:21 「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。」 先週も、これを引用しましたが、最初に従う時の行いは自分の口でイエス様を主として告白する事です。イエス様は今日の箇所でその話の流れで私に従う人は神様の栄光になる実を結ぶ話をしています。

ヨハネ15:4-5 「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」

人間として造られて命を与えられた最大の目的は、創造主である神様の栄光を現わす事です。そして、イエス様はそれを実現出来る唯一の方法を話しています。イエス様にとどまるという意味は、その言葉に従うという事です。

ヨハネ15:16 「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。」

これはイエス様に従う人以外は出来ませんし、信者であっても、従っていない時にはこれが出来ません。先週にも言いましたが、ぎりぎりでも何も実りのないクリスチャンとして天国に入るか、永遠に残る実を結んだクリスチャンとして天国に入るかの選択肢があります。それはどこまで従うかによって決まるのです。

ヨハネ15:8 「あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。15:9父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。」

神様の栄光になる実の一番の特徴は自己犠牲的な無償の愛です。9節の父なる神様のイエス様に対する愛はイエス様が私達に対して見せて下さった愛と全く同じです。私達もその愛にとどまるかどうかはイエス様に従っているかどうかによって決まります。これは天国に行けるかどうかの話ではなくて、神様の愛にとどまって神様の栄光になり、実を結んでいるかどうかの話です。

コリント第一13:3 「また、たとえ私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。」

ここで、神様の愛の特徴がはっきりと書いてあります。

コリント第一13:4 「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。13:5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、13:6 不正を喜ばずに真理を喜びます。

13:7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。

13:8 愛は決して絶えることはありません。」

自分の利益を求めないと言うのは無償の愛です。「人のした悪を思わない」と言うのは、自分に対して悪をした人を完全に無条件的に赦すということです。イエス様が十字架の上で見せて下さった私達に対する愛です。イエス様に従っている人なら、誰でも実現出来ます。

お勧めの本を紹介しましょう。(特に日本人男性にお勧めです)。

「手負いの虎」という本です。私は10年ぐらい前に英語版“Wounded Tiger”を読みましたが、やっと一か月ぐらい前に日本語版が出来て、インターネットのAmazonで販売しています。第二次世界大戦で敵同士だった人達がイエス様の愛によって赦し合い、和解して宣教師になりました。本の中心となる人物は淵田美津雄さんです。彼は真珠湾攻撃の総隊長として虎虎虎の暗号を発信して一番先頭で飛んでいた攻撃のリーダーでしたが、戦後にイエス様の信者になって宣教師になりました。この話の中で一番すごいのは若い女の子、ペギー・コベルさんが見せたイエス様の愛と赦しです。彼女は両親が日本で宣教師として働いている時に生まれ、10代まで日本で育ったのですが、戦争が始まってから両親は子ども達を先にアメリカに帰らせました。その後で、両親は二人とも日本軍に捕まって首を落とされて処刑されてしまいました。それなのに彼女はアメリカで捕虜になった日本人兵士達を一番愛し、世話をする人となったのです。淵田美津雄さんはその証を捕虜になった部下から聞いて初めて聖書を読むようになり、救われました。

## 2. イエス様に従う喜び

先週、復活の信仰の課題について話した時にも、従う事の大切さをお話ししましたが、今日も付け加えてお話しします。キリストにある事とキリストにとどまっている意味の違いを説明しましょう。聖書によると、全ての信者はキリストにあると書いてありますが、今日の箇所ではイエス様にとどまると言うのは、それだけではなくて、イエス様に従うことです。イエス様はぶどうの木と枝のたとえ話で、従う大切さについて話しています。

ヨハネ15：9-11「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。15:10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。

15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」

従うことが大切なのは、実を結びながら、喜びで満たされるからです。イエス様の最大の喜びは父なる神様の御心に仕がう事であったように、私達も従う時にその喜びを体験します。でも、楽に従う事が出来たと言う意味ではありません。ゲッセマネの庭で汗の中で血が交えたほどに、イエス様は苦しんで祈っていました。「私の思いではなくて御心のままにしてください。」と。これはクリスチャンの全ての祈りの大前提です。御心に服従して祈らなければなりません。

イエス様は十字架に行く事によって次の旧約聖書の預言を成就しました。

詩編40:8 「わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」

新約聖書のヘブル人の手紙10章の中で、イエス様についてこの言葉が引用されて、しかも、それが十字架によって私達の為に新しい契約を結ぶ話として引用されています。

ここに書いてあるイエス様の満ち溢れるほどの喜びを体験するのは、その戒めに従う事によるのです。

ヨハネ15:12「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」

これより手前の箇所でもイエス様はこれを話していますから、繰り返して強調しています。

ヨハネ13:34「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

この戒めは何が新しいのでしょうか？旧約聖書の戒めは「自分自身のように隣人を愛しなさい。」でした。つまり、誰に対しても差別をしないで全ての人を自分と同じように大切にしなさいと言う事です。誤解してはいけないのは、これが好きになりなさいと言う意味ではなくて、大切にしなさいと言う意味だという事です。でも、イエス様の新しい戒めはそれよりもはるかに超える高い基準です。

イエス様のように互いに愛し合いなさいと言うのは、自己犠牲的な完全な無償の愛を持って無条件的に赦し合いなさいと言う命令です。イエス様に従っている人だけが体験出来ます。私には出来な

と思いますか。当然の事ですが世界中で多くのクリスチャンはイエス様に従う事によってこれを  
実現出来ています。先ほど言った18歳のペギー・コベルさんもその中の一人に過ぎません。彼女は  
あなたと私と同じ人間ですから、全く同じ感情を持っていますが、イエス様に従って実現すること  
が出来たのです。

第二コリント10:3-5「私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。10:4 私  
たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

10:5 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべての  
はかりごとをとりこにしてキリストに服従させる、」

敵は人ではなくて目に見えない悪魔です。私はいつも、分かりやすい同じたとえ話しを使って説明  
します。頭の上に飛んでいる鳥を止めることはできませんが、その鳥が頭の上に巣を作らせるのは  
止める事が出来ます。何かがふっと思い浮かぶ事は自分で止められませんが、どの思いを考え込む  
のかどうかは選ぶことが出来ます。これはそれぞれの自由意志で決める事です。

ヤコブ4:6 「しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われてい  
ます。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。4:7「ですから、神に従いな  
さい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」

神様に従っていない人は悪魔に立ち向かう事も出来ません。もちろん、自分の力だけで勝利するこ  
とは出来ません。イエス様でも、父なる神様に服従していました。聖霊も自分から勝手に語らない  
で父なる神様に服従しています。服従しない人間はどれだけ高ぶって高慢になっているのかが示さ  
れています。

### 3. 実によって見分けられる。

マタイ3:19「良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。7:20 こういうわ  
けで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。7:21 わたしに向かって、  
『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこ  
ろを行なう者がはいるのです。」

この箇所を読み続けると

マタイ7:22「その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの  
名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行  
ったではありませんか。』

7:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不  
法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」

聖書の中でこれよりもっと恐ろしい箇所は余りないと思います。霊的な賜物を持っているのが救わ  
れている証拠なのではなくて、その唯一の証拠は神様の栄光になる実を結んでいるということなの  
です。

ガラテヤ5:22「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、5:23 柔和、自  
制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」

最初のポイントで言いましたがイエス様の自己犠牲的な無償の愛が一番の特徴ですが、イエス様の  
喜び、イエス様の平安、など、これらの実は一つも自分から出る物ではなくてイエス様の命が自分  
の中で宿っている証拠なのです。

ヨハネ15:2「わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、  
もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。」

ここで、このたとえ話の解釈にくい所が一つあります。イエス様に捨てられてしまう可能性があ  
ると解釈すれば、間違った解釈になります。聖書の他の箇所で「主ご自身が言われる、私は決して  
あなたを離れない、あなたを捨てない」と約束しています。ですから、それと合わせてこのたとえ  
話を解釈しなければなりません。2節に取り除くと書いてある意味は、捨てられてしまうという意  
味ではありませんが、神様の働きの邪魔にならないようにその働きから外されてしまうことがある  
のです。このように解釈をしなければ6節はイエス様の信者でも、地獄の火に投げ込まれてしまう  
という解釈になってしまいます。

ヨハネ15:6「だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。」

正しいバランスの取れた聖書解釈が出来る為に同じ事について書かれている他の箇所も見て解釈するのが大切です。

コリント第一3:13-15「各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。3:14 もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。

3:15 もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。」

信者になってから、神様の働きに何も貢献していなくても、何も役に立たない人でも、救われます。イエス様の隣で死んだ泥棒は何も貢献出来ませんでした。洗礼を受ける事も出来なくて、教会員にもなれなくて、しかも、盗んだ物を一つも返す事も出来ませんでした。イエス様は彼に断言しました。

ルカ23:43「イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

まとめ

ヨハネ15:13「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」

イエス様は敵対していた私達の為に命を捨て最大の愛を示しました。

ローマ5:8「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。5:9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

5:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」